

2016年7月8日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 塩田 正純

ケニア国ナイロビ高架橋建設・道路拡張事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2016年6月10日(金)14:04~18:04
- ・場所：JICA本部(2階212会議室)
- ・ワーキンググループ委員：作本委員、塩田委員、田中委員、谷本委員
- ・議題：ケニア国ナイロビ高架橋建設・道路拡張事業協力準備調査に係るスコーピング案に対する助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) ケニア国ナイロビ高架橋建設・道路拡張事業協力準備調査助言委員会資料
 - 2) 追加資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第71回委員会)

- ・日時：2016年7月8日(金)14:29~16:45
- ・場所：JICA本部(1階111・112会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 戦略的環境アセスメントを実施している場合には DFR でその内容を紹介すること。
2. 対象道路の標準横断構成の設定根拠について DFR に記述すること。

代替案の検討

3. 代替案の生活環境項目について詳細に DFR に記述すること。
4. 代替案の検討において、ルート、構造等を含めて比較し、その結果を DFR に記述すること。その際には、優先事業選定プロセスにおける「高架橋 1」と「高架橋 1：代替案」の表記をわかりやすく改めること。

スコージング・マトリックス

5. 「廃棄物」及び「気候変動」の項目で、供用時の影響評価は B-と修正し、DFR に記述すること。

環境配慮

6. 大気及び水質の汚染状況を具体的なデータに基づき DFR に記述すること。
7. 市場から出るごみ、道路上のごみの処理方法について DFR に記述すること。
8. 地盤特性を考慮した道路構造設計をベースに騒音・振動防止策について検討し、その結果を DFR に記述すること。
9. 本事業の実施に伴う街路樹の伐採の代償として、大気汚染、騒音、気候変動の緩和策となる道路・高架橋の整備に伴う沿道緑化・街路緑化を積極的に検討し、その結果を DFR に記述すること。
10. 「生態系」については、貴重種に限定することなく調査を行うこと。さらにナイロビ国立公園の生態系への影響については、その予測の内容と共に、過去の類似事業の事例の聴き取り調査の結果を DFR に記述すること。
11. 工事中の労働環境衛生について、粉じん、アスベスト、排ガス等の処理方法や手順に関して実施機関等と協議し、その結果を DFR に記述すること。
12. 本事業の実施に伴う環境変化や緩和策の効果等を的確に把握・確認するため、事業対象地の周辺を含めた環境モニタリング計画を検討し、その結果を DFR に記述すること。

社会配慮

13. ワクリマ市場の一部用地取得に伴い、移転・退去を求められる被影響者の範囲及び補償の内容を実施機関等と協議し、その結果を DFR に記述すること。
14. 本事業によって整備される区間毎に用地取得や移転の影響を受ける建物、住民数を一覧表に整理し、DFR に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

15. 住民協議開催の方法及び必要な回数について、実施機関と協議し、その結果を DFR に記述すること。

その他

16. DFR では、各環境項目の用語を適正に表現すること。

以上